

# 福岡県におけるシェアサイクルの利用実態把握 —福岡女子大学生及び教職員を対象として—

早船 萌海<sup>1</sup>・松永 千晶<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 非会員 福岡女子大学 国際文理学部環境科学科 (〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1)

<sup>2</sup> 正会員 福岡女子大学 国際文理学部環境科学科 (〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1)

E-mail: matsunaga@fwu.ac.jp (Corresponding Author)

シェアサイクルは、欧米で初めて導入され、脱炭素、移動の活性化、観光地の周遊性向上などの点で注目されている。しかし、日本と海外では導入しているシェアサイクルのシステムや道路整備に違いがあり、さらなる利用促進には導入都市やサービスエリアの交通環境や利用実態の把握が重要である。本研究は、福岡におけるシェアサイクル整備に必要な知見を得ることを目的に、現在の実態と問題点の把握を試みるものである。今回は基礎的段階として、敷地内にポートが設置された福岡女子大学の学生及び教職員を対象にシェアサイクルの利用経験、その目的や利用頻度等のアンケート調査を行い、利用実態の把握を行う。その上で、福岡女子大学周辺、また福岡女子大学生のシェアサイクル需要について明らかにする。

**Key Words:** *share cycling, local transportation*

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景

我が国ではシェアサイクルサービスの導入が進んでおり、国土交通省<sup>1)</sup>によれば、現在 225 都市においてサービスが展開されている。シェアサイクルは 1960 年代のヨーロッパで始まった。はじめは匿名で利用できることによる盗難や破壊の問題により失敗していたが、1990 年代になると個人を特定可能な磁気カードなどが用いられ、次第にスマートフォン認証などが導入され、欧米から中国やシンガポール、日本などにサービスが導入されることになった。

いまでは世界各国で導入されているが、欧米諸国と日本ではシェアサイクルが置かれている環境は異なっている。ヨーロッパ諸国では自転車道の整備が進んでいるのに対し、日本はまだ発展途上である。また、日本は欧米に比べて建物が過密な都市構造になっていることから、ポート等の関連設備を整備できる土地が少なく、ポートの視認性や配置についても工夫が必要である。わが国でシェアサイクルを普及させるためには、欧米諸国のシステムをそのまま導入するのでは十分とは言えず、日本の都市構造や需要合わせたシステムに再編し、効率的なサービスを行う必要がある。

また、導入目的も異なっており、欧米では単に公共交通機関の一部またはそれを補完するものと位置付けられ

ているのに対し、日本ではまちづくりの一環や観光時の周遊性向上を目標にしているところもある。目的により当然最適な配置やサービスは変化するため、日本に合わせた調査が必要だといえる。

さらに、事業者にとっては採算性が大きな課題となっており、なかには地方自治体の支援を受けている事業者もある。シェアサイクルサービスを運営するにあたって、自転車を需要の多い地点に移動させる「再配置」が必要であり、コストがかかる。自転車配置のさらなる効率化でコストを削減することが求められている。

以上のような背景から、日本では社会実験や研究を通じて現状の分析が行われている。脱炭素社会や MaaS の普及など、将来の公共交通のなかでシェアサイクルは注目されているサービスの一つである。シェアサイクル事業を発達させるためにも、導入都市やサービスエリアの交通環境、サービスに対する需要や問題点を把握することが重要である。

### (2) 既往研究および本研究の目的

国内のシェアサイクルを調査・分析し、その最適化の提案を試みた研究は少なくない。例えば、佐藤ら<sup>2)</sup>は名古屋市で行われた「名チャリ社会実験 2009」を対象にし、都市構造と貸出場所の関係を明らかにすることを目的に貸出頻度モデルを構築した。丸山ら<sup>3)</sup>は札幌都心部で展開している「ポロクル」のデータを使用し、ユーザー層

の違いや、休日と平日の移動パターンの違い、ポートごとの需要などを可視化させている。山谷ら<sup>4)</sup>は金沢市内を周遊する「まちなり」のサイクルポートの位置を評価・考察している。松本ら<sup>5)</sup>は、東京都世田谷区における「がやリン」と事例に利用特性を分析し、その役割を考察している。これらの多くは、各地域でシェアサイクルサービスの利用状況を分析したものであるが、福岡市を対象とした研究はない。自転車利用者が多く駐輪対策や自転車専用レーンの整備を進めてきた同市では、2018年より市の補助事業としてシェアサイクルの導入を補助した経緯があり、今後もサービスの拡大が考えられる。しかし、導入都市やサービスエリアの交通環境や、自転車の利用実態によって最適なサービスレベルや運営が異なることから、福岡市での調査・分析が求められると考えられる。

そこで本研究は、福岡市のシェアサイクルの整備に必要な知見を得ることを目的とし、まずは基礎的段階として、学内にサイクルポートが設置されている福岡女子大学の学生および教職員を対象としたアンケートから利用実態と改善点を把握し、今後の課題について検討を試みるものである。

## 2. 調査概要

### (1) 調査対象

本研究の対象は、福岡女子大学に所属する学生、および教職員とした。選定の理由は、福岡のシェアサイクル利用実態を調査するにあたって、福岡女子大学には Neuet 株式会社が運営するシェアサイクルサービス Charichai のポートが設置されておりサービスが身近であること、また、Charichai のサービスは福岡市内の繁華街にも設置されており、福岡女子大学に設置されたポート以外の利用に関しても調査を行い、学生に特化した研究を行うことで若者のシェアサイクル利用実態を明らかにしやすいためである。

また、今回は福岡に特化した研究であるため、福岡で使用されているシェアサイクルサービスとして Charichai と対象に調査を行った。

### (2) 調査内容

今回の調査は、福岡女子大学に所属する人のシェアサイクル利用実態を把握するとともに、利用者がどのような改善を求めているのかを把握することを目的とする。

質問項目は、まず性別や学年、居住地区等の個人属性を設定した。次に、福岡女子大学に設置された Charichai のポートおよび大学外のポートの利用経験、利用した人には目的・頻度・どの地点で使用したのかについて調査

した。また、どのような改善があればより利用したいと思うかについて尋ねている。オンラインで選択式と記述式を組み合わせたアンケートを実施する。

## 3. おわりに

わが国でも導入が進められているシェアサイクルであるが、導入都市やサービスエリアの交通環境や自転車の利用実態によって最適なサービスレベルや運営が異なることから、それらの把握が重要である。本研究は、市がシェアサイクル事業の補助を行っている福岡市を対象に、シェアサイクル利用と整備に必要な知見を得ることを目的とするものである。今回は基礎的段階として、学内にサイクルポートを有する福岡女子大学の学生と教職員にアンケートを行い、利用目的や頻度、求められているサービスの改善点について分析を行う。結果については当日会場にて報告する。

## NOTES

注1) 国土交通省：シェアサイクルに関する現状と課題 <https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/sharecycle/pdf01/03.pdf> 2022年11月30日閲覧

## REFERENCES

- 1) 佐藤仁美, 酒井良輔, 三輪富生, 森川高行：コミュニティサイクルシステムの利用実態とステーション配置に関する研究, 土木学会論文集, 69 巻, 5 号, pp.563-570, 2013[SATO, H., SAKAI, T., MIWA, T and MORIKAWA, T : Study of Use Realities and Station Arrangement Of Community Cycle System, *Journal of the Japan Society of Civil Engineers*, Vol.69, NO. 5, pp563-570, 2013]
- 2) 丸山翔大, 松田真宜, 長谷川裕修, 有村幹治：データマイニングアプローチによるコミュニティサイクル利用動態の抽出, 土木学会論文集, 79 巻, 第 5 号, pp. 671-680, 2014. [MARUYAMA, S. NATSUDA, M. HASEGAWA, H and ARIMURA, M. : *Extraction of the Actual Condition of the Community Cycle by Using Data Mining Techniques*, *Journal of the Japan Society of Civil Engineers*, Vol.70, NO. 5, pp671-680, 2014]
- 3) 山谷佳史, 藤生慎, 森崎裕摩：地域特性を考慮したシェアサイクルポートの適性配置に関する分析—金沢市内を周遊する「まちなり」に着目して—, AI・データサイエンス論文集, 3 巻 J2 号, 2022. [YAMAYA, Y., HUJYI, M. and MORISAKI, Y. : *Analysis of Proper Placement of Share Cycle Ports in Consideration of Regional Characteristics: Focusing on the "Machinori" that Goes around Kanazawa*, *Journal of Artificial Intelligence and Data Science*, Vol.3, No. J2, 2022. ]
- 4) 松本江利奈, 宮沢仁：東京都世田谷区におけるコミュニティサイクルの利用特性, 季刊地理学, Vol.67,

pp. 69-86, 2015. [MATSUMOTO, E. Miyazawa,  
H. :Bike-sharing System Utilization Characteristics in  
Setagaya Ward, Tokyo, *Quarterly journal of geography*,

Vol.67, pp. 69-86. ]